

つがる市带状疱疹予防接種のお知らせ（令和8年度）

带状疱疹は、過去に水痘（水ぼうそう）にかかった時に体の中に潜伏した水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る**带状疱疹後神経痛**があり、日常生活に支障をきたすこともあります。

带状疱疹は、70歳代で発症する方が最も多くなっています。

接種場所

つがる市带状疱疹予防接種実施医療機関（別添一覧表をご確認ください。）

接種予約

多くの実施医療機関で、**予約必須**となっております。受付方法は、実施医療機関によって異なりますので、別添一覧表をご確認の上、ご希望の医療機関にご連絡ください。

ワクチンの種類、接種回数、自己負担額について

生ワクチンと**組換えワクチン**の2種類があり、接種回数及び自己負担額が異なります。

○ワクチンの種類と接種スケジュール

ワクチンの種類	接種回数（接種間隔）	接種費用	自己負担額※
生ワクチン	1回	1回 8,000円 ～10,000円	1回 4,000円
組換えワクチン	2回 (2か月以上の間隔をあける。)	1回 22,000円 ～25,000円	1回 10,000円 (2回で 20,000円)

※生活保護を受給している方は、接種費用が免除となります。**医療受給者証**をご用意ください。

なお、接種対象となる方に対しては、予診票を1枚お送りしております。**1回目に組換えワクチンを接種した方には、1回目の接種日の翌月末に、もう1枚の予診票をお送りいたします。**

接種期間

令和9年3月31日までに接種を完了してください。令和9年3月31日を過ぎますと、任意接種となり、**接種費用の全額が自己負担**となりますので、接種日に十分ご注意ください。

組換えワクチンを接種する方は、2回目の接種も令和9年3月31日までに完了してください。1回目から2か月以上の間隔をあける必要がありますので、1回目を令和8年中に接種することをおすすめします。

医療機関に持参するもの

- 1) 予防接種予診票（必要事項を記入してください）
- 2) 予防接種済証
- 3) 本人確認書類（マイナンバーカード、運転免許証など）
- 4) 自己負担額 ※生活保護を受給している方は、**医療受給者証**

裏面の説明書も必ずお読みください。

带状疱疹予防接種を受けるにあたっての説明書

～ 予診票を記入する前に必ずお読みください ～

本説明書を読み、理解し、納得して予防接種を受けてください。予診票に、接種に同意する署名をしてください。

【ワクチンについて】

接種回数、接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なります。いずれのワクチンも、带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

○接種について

	生ワクチン	組換えワクチン
接種回数（接種方法）	1回（皮下に接種）	2回（筋肉内に接種）
接種スケジュール	—	2か月以上の間隔を置いて2回接種 ※医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。
接種できない方	病気や治療によって、免疫が低下している方は接種出来ません。	免疫の状態に関わらず接種可能です。
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。

○効果について

経過年数	生ワクチン	組換えワクチン
接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

※合併症の一つである、带状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、組換えワクチンは9割以上と報告されています。

○主な副反応（各社の添付文書より厚労省にて作成）

*ワクチンを接種した部位の症状

副反応の発現割合	生ワクチン	組換えワクチン
70%以上	—	疼痛*
30%以上	発赤*	発赤*,筋肉痛,疲労
10%以上	そう痒感*,熱感*,腫脹*,疼痛*,硬結*	頭痛,腫脹*,悪寒,発熱,胃腸症状
1%以上	発疹,倦怠感	そう痒感*,倦怠感,その他の疼痛

※頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、組換えワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

【他の予防接種との間隔】

いずれの带状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。ただし、生ワクチンについては、他の生ワクチンと27日以上の間隔をおいて接種してください。

【予防接種を受けることができない場合】

- 1) 明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます）がある場合
- 2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- 3) 予防接種の接種液の成分によって過敏症を起こしたことがある場合
- 4) その他、医師が不適切な状態と判断した場合

【予防接種による健康被害救済制度について】

带状疱疹予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になる、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の原因によるものか因果関係等について国の審査会にて審議した結果、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。